

2. 事業の概要と成果	
1) 上位目標の達成度	<p>Healthy Village プロジェクトは、事業終了から3～5年後に達成すべき上位目標を「事業対象地域の保健状況が改善する」と設定している。1年次に引き続き、2年次にあたる本事業の活動も計画通りに進んでおり、住民の基礎保健知識向上（事業開始当初に比べ、理解度が12%から43%に向上）や健康希求行動の改善（例えば、以前は食後に限定されていた手洗いを食前やトイレ使用後にも行うようになった、蚊の発生を抑えるため水たまりを土で埋めたり水瓶にふたをしたりするようになった、トイレを清潔に保つようになった等）など期待した成果が発現しつつある。3年次も継続して計画通り活動を遂行することで、上位目標の達成が見込まれる。</p>
2) 事業内容	<p>Healthy Village プロジェクトは、ミャンマー連邦共和国中央乾燥地に位置するパコク郡の西部40村（受益者約35,000人）で、住民自身が村独自の「Healthy Village」の概念を策定・具現化する過程を通じ、対象地域の保健状況が改善することを目標としている。下記のように3年計画で実施しており、本事業はその2年目である。</p> <p><b>【3年間の流れ】</b></p> <p>1年次（下地づくり）：村の現状把握・問題分析を通じた解決課題の優先付け  全村でVillage Health Development Committee（以下VHDC）と副委員会（保健教育、水と衛生、救急処置・患者搬送、生計向上の4チーム）を結成  全村でチームごとに課題解決のための活動計画（アクションプラン）策定</p> <p>2年次（能力強化）：研修を通じた各チームメンバーの能力強化  各チームによるアクションプランの実行</p> <p>3年次（総仕上げ）：各チームのアクションプランの実行と評価  村々の個別ニーズを満たす活動（以下特別コンセプト活動）の実施と評価</p> <p>本事業（2年次）期間中に予定していた活動は、以下の通りすべて計画通り実施された（詳細は別添1参照）。</p> <p><b>(ア) 住民参加による「Healthy Village」を推進するためのマネージメント体制の構築および強化</b></p> <p>VHDCならびに各副委員会のメンバーが、Healthy Village 実現に向けた活動進捗状況を発表するHealthy Village ワークショップを開催し、対象地域の43%にあたる世帯から3,296人が参加した。また、VHDCが自身の村で進める活動の進捗や課題、今後の計画を他村のVHDCメンバーと共有する中間ミーティングや年次総会のほか、村の相互訪問（スタディーツアー）機会を提供し、VHDCメンバー同士の相互学習や人材交流を図った。この他、Healthy Village 活動を推進するVHDCや副委員会メンバー、関係行政スタッフ（保健スタッフなど）に対し、活動促進ツール（雨季の活動用レインコートやバッグ）を供与した。</p> <p><b>(イ) 住民の基礎的な保健知識の向上</b></p> <p>住民への保健教育を担当する「保健教育チーム」のメンバー200名に対し、保健教育研修（HIV/AIDS、結核、母子保健などに関する基礎知識、ピアエデュケーション方法、教材の効果的な利用方法など）を開催したほか、保健教育に利用する教材セット（ゲームカード、紙芝居、バナー）を全村に供与した。同チームはフェーズ1で作成した保健教育に係るアクションプランに基づいて計497回の保健教育を実施し、のべ24,696名の住民が参加した。この他、チームメンバーは基礎保健知識調査を実施し、住民の基礎保健知識の変化を定量的に計った。</p>

	<p><b>(ウ) 安全な水と衛生に関する環境の改善</b></p> <p>村の環境衛生改善活動を推進する「水と衛生チーム」のメンバー200名に対し、水と衛生研修（フィルター浄水、水質検査やトイレ建設の方法など）を開催した。また、同チームはフェーズ1で作成したアクションプランに基づき計216回の環境衛生活動（ごみ収集所の設置、村内清掃など）を実施し、のべ1.3万人の住民が参加した。この他、本事業からの資機材（トイレパン、パイプなど）供与と住民負担（壁・屋根の素材、砂利など）により3,532世帯にハエ防止型トイレが設置され、村の衛生環境の改善が進んだ。</p> <p><b>(エ) 基礎ヘルスケアへのアクセス強化</b></p> <p>村の救急患者に対応する役割を担う「救急処置・患者搬送チーム」のメンバー240名に対し、救急処置研修と基金運営研修を開催したほか、村で簡易な応急処置が出来るよう全チームメンバーに救急処置キットを供与した。また、村で基礎ヘルスケア（特に母子保健分野）提供の役割を担う准助産師21名に対し、母子保健に係る基礎研修を開催したほか、安全な分娩介助や治療・処置が出来るよう聴診器など必要備品が含まれた准助産師キットを供与した。この他、特に医療用家具が不足している5つの公的保健医療施設に、診療用ベッドなど8種類の医療用家具を計32品提供した。</p> <p><b>(オ) 生計活動に関する知識と技術の向上</b></p> <p>生計向上活動の中心的役割を担う「生計向上チーム」240名に対し、農業・畜産研修（身近な材料で作れる殺虫剤・殺菌剤、効果的な養鶏・養豚方法など）を開催した。うち144名はOISCA研修センターを訪問し、有機肥料作成や土壌管理方法について学んだ。また、フェーズ1で作成したアクションプランに基づきチームメンバーが研修で学んだ知識・技術を普及するセッションを開催し、のべ8,985人の村人が参加した。</p> <p><b>(カ) 住民参加による各村の個別ニーズの具現化活動</b></p> <p>アクションプランの作成を目的としたワークショップにおいて、特別コンセプト活動の具体的な実施計画（建設許可申請、経費計算、住民説明、必要の集金など必要な活動とそのタイムラインなど）が策定された。なお特別コンセプト活動として、15村が発電機設置による村内電化、6村がコミュニティセンター建設、5村が給水設備設置、4村が電柱修繕による村内電化、1村が電線修繕による村内電化、1村が道路修繕を実施することになった。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p><b>(ア) 住民参加による「Healthy Village」を推進するためのマネージメント体制が構築され、強化される</b></p> <p>対象全40村でVHDC及び副委員会(4チーム)が形成され、計954名のメンバー(男性503名、女性451名)がHealthy Village実現に向けた活動を推進している。各活動は、VHDCと副委員会が作成したアクションプランに基づき、幅広い住民の理解と参加の下、計画どおりに進んでいる。また、以下(イ)～(オ)記載の通り、副委員会メンバーの知識・技術が向上しており、十分なマネージメント体制が構築され、強化されている。</p> <p><b>(イ) 住民の基礎的な保健知識が向上する</b></p> <p>対象村全世帯の約16%にあたる1,231世帯に対し基礎保健知識を調査したところ、正答率はフェーズ1開始時の12%から43%へと向上しており、当初目標とした37%を超える結果となった。高い成果を得られた背景として、保健教育チームメンバーが</p>

精力的に保健教育を実施していること（本事業期間中に計 497 回開催、住民 2.5 万人が参加）、保健教育チームメンバーの保健知識と教育手法技術が向上していること（メンバーへの保健教育研修の事前事後テストの正解率が 58%から 73%へと向上）などが挙げられる。また、地元の社会文化面に配慮して家族計画や HIV/AIDS など性に関わる保健教育は男女に分けて実施したり、学校教師と連携して児童を対象とした個人衛生教育を行ったりするなど、メンバー自身が考え工夫したことで保健教育の効果が高まったこと、老若男女を問わず幅広い層からの参加が得られたことも高い成果に繋がっている。他方、住民の保健知識にはテーマごと、村ごとに差異も見られることから（例えば高血圧など正解率が 50%を超えるテーマもあれば、急性呼吸器感染症など正解率が 30%以下に留まるものもある。また、村ごとの正解率も 25%から 73%とばらつきがみられる）、フェーズ 3 では特に理解度の低いテーマ・村に重点を置きながら、引き続き支援していく予定である。

知識の向上だけでなく、保健に関わる住民の意識や行動にも徐々に変化が表れている。例えば、妊娠したら妊産婦健診を受けるべきことを理解した、リスクがある場合は病院で出産すべきことを理解した、といった意識の変化や、バランス良い食事を取るようになった、ビタミン流出を防ぐため米を洗いすぎることがなくなった、などの声が聞かれている。

#### （ウ）安全な水と衛生に関する環境が改善する

これまでトイレがなかった 3,532 世帯で新たにトイレが建設されたことにより、本事業地における適切なトイレの所有率は 12%から 58%へと向上した。新たにトイレを建設した住民からは、「外で用を足す住民の数が減ったため、道や畑がきれいになった」、「外に人がいなくなるまで用を足すのを我慢する必要がなくなった」といった声が寄せられている。前述保健教育との相乗効果も見られ、例えば保健教育を受けた学校関係者から「食事をする前とトイレを使った後は、石鹸を使って手を洗うようになった」といった報告が寄せられている。

全 40 村で、のべ 1.3 万人の住民参加を得て、衛生環境改善活動（ごみ収集所の設置、村内清掃、道路修繕など）が実施された。参加した村人からは「自分たちが住む村をきれいにするのは自分たちの義務だと気付いた」といった声が多数あがっており、環境衛生に関わる住民の意識に変化が表れている。

水と衛生チームにより計 140 回実施された水と衛生教育では、いくつかの浄水方法を、実習を交えて住民に説明した。参加した村人は、室内にある水瓶だけではなく野外にある水タンクに給水する時もフィルターを使うようになった、飲用水は沸騰させてから飲むようになった、など安全な水に関わる行動にも変化が見られている。

#### （エ）基礎ヘルスケアへのアクセスが向上する

事業対象全村で、これまでに存在していなかった救急患者の搬送システムが構築された。その結果、本事業期間中に出産・下痢・高熱などを患った 131 人の救急患者が病院に搬送され治療を受けたほか、搬送の必要性のない軽症の（もしくは搬送前の応急手当が必要な）5,945 人が、救急処置・患者搬送チームメンバーから外傷の簡易手当を受けた。チームメンバーを対象とした研修の事前事後テスト結果を比較したところ、正解率が 57%から 79%まで向上していることから、より確実に迅速な搬送システムへと強化されている。なお、搬送・治療費をすぐに捻出できない患者が、無利子でお金を借りられる搬送基金も設立され、困窮にあえぐ貧困層の村人でも公平に救急医療サービスを受けられる体制が整った。

本事業で研修を受講した 21 名の保健ボランティア（准助産師）は、公的な基礎ヘルスケアである乳幼児予防接種や妊産婦健診サービス提供時に、基礎保健スタッフに同行し業務を補佐している。本事業の研修を通じ、彼女らの母子保健知識は向上しており（研修前後テスト結果比較によると正解率が 51%から 75%に向上）、自信をもって業務補佐にあたるようになった。また、知識・技術だけでなく、意欲が向上している様子も確認されている（例えば毎月の予防接種活動に必ずしも参加していなかった准助産師が、活動に積極的に参加して基礎保健スタッフを補佐するようになる等）。その為、准助産師の役割と重要性が住民に再認識されただけでなく、基礎保健スタッフとの連携も活発化している。

本事業対象村を管轄する 9 つの公的保健医療施設のうち、特に医療用家具が不十分だった 5 施設に診察用ベッドなどの備品を供与したことにより、基礎保健サービスの提供者も患者も、より快適で満足度の高いサービスを受けられるようになった。

#### （オ）生計活動に関する技術や知識が向上する

生計向上チームメンバーを対象とした農業及び畜産研修 4 コースの事前事後テスト結果を比較したところ、農業の知識が 12%から 66%（目標値 27%）に、畜産の知識が 47%から 80%（目標値 62%）と、いずれも目標値を大きく上回るレベルまで向上した。この背景には、ベースライン調査で特に理解度の低かったテーマ（害虫・疫病知識、殺虫剤が人間の身体に与える害、人畜共通感染症など）に重点を置いて、研修を開催したことも大きい。

畜産・農業セッションに参加した住民からは、化学肥料が人体や環境に及ぼす影響や、人畜共通感染症に高い関心が寄せられている。中には、人体への悪影響を心配して化学肥料から有機肥料に切り替えた、家畜の予防接種を必ず受けるようになったというような変化が見られ、行動変容につながったケースも確認されている。

#### （カ）住民参加により各村の個別ニーズが満たされる

VHDC と副委員会 4 チームが中心となって、村人とともにニーズの優先順位を決め、活動計画を立て、活動に必要な資金を集め、実行する過程を通じ、メンバーのマネジメント能力が徐々に向上している。

個別ニーズ活動（学校建設や給水施設整備など）に必要な経費の 30%以上は住民が負担し、本事業からの補助は一部に留めている。Healthy Village 実現に向けた村人の意欲と期待は高く、予定より早いペースで必要経費の集金が進められている。

#### 上位目標の達成へ向けた期待

上述のとおり、当該プロジェクトは「事業対象地域の保健状況が改善する」ことを事業終了から 3～5 年後に達成すべき上位目標として設定している。保健状況の改善とは、①各家庭やコミュニティにおける疾患予防のための知識の向上や行動変容が伴うこと、②各家庭の食生活や生活がより豊かになり、母子の栄養状態が少しでも改善すること、③質の高い保健医療機関（保健人材）へのアクセスが向上すること、そして④コミュニティ全体としての問題解決能力（正しい問題分析と目的分析、戦略的なリソースの活用、活動の実施管理に係るキャパシティ）が向上することである。当該プロジェクトは、これまでに上記 4 つのアプローチを包括的に採り入れ活動を推進しており、上位目標の達成に向け、着実に歩を進めていると考える。

（４）持続発展性

本事業は、保健分野を舞台に、住民が地域社会の課題に自身で対応する力を身につける能力向上支援プロジェクトである。本事業を通じ、住民たちは VHDC や各副委員

会メンバーを中心に、地域特性やニーズ等の現状把握と問題分析、地域資源を活用した解決方法の決定と実施といった一連のアプローチを、実践を通して習得している。住民が本事業で得た経験と知識は事業が終了しても消えることはなく、継続して村の発展に資すると考える。また、保健局や農業及び畜産局などの地方行政機関を事業に巻き込むことで地域住民と行政間の連携を促進・強化し、既存の社会システムを最大限に活用して活動を持続・発展できるよう配慮している。

#### 住民の基礎保健知識の向上

保健教育チームは、研修やスタディツアーの後、村における保健教育活動に対する当団体スタッフからの助言を採り入れ、大人数を一堂に集めて保健教育を実施するのではなく、少人数を対象に数回にわけて行うなど、自ら工夫をして保健教育を実施出来るようになってきている。住民の基礎保健知識が向上していることも確認され、また疾病の予防に努めたり適切な治療を求めたりするなど住民の行動にも変化がみられていることから、今後も住民の健康が持続的に維持改善していくものと思われる。

#### 水と衛生に関する環境改善

水と衛生チームは、身近な資材を利用したトイレ建設技術に加え、適切な使用と保守整備の方法を学んでいることから、建設されたトイレは事業終了後も適切に維持管理されると考える。また建設にあたっては、住民も必要資機材を一部個人負担して建てているため、オーナーシップも高く、これまでに完成したトイレはすべて適切に使用されている。

チームメンバーは学校との協働により、児童を対象に個人衛生や環境衛生について指導した。また教師のイニシアチブにより、日々の活動に環境衛生活動を採り入れた例が確認されている。若い世代を対象に環境衛生の改善習慣が根付くことにより、彼らが成人した際、村は顕著な改善を遂げているであろうと期待している。

#### 基礎ヘルスケアへのアクセス強化

全対象村で構築された患者搬送システムは、各村で策定された規約に基づいて運用されており、ほとんどの村で搬送患者台帳や搬送基金帳簿が適切に記録・管理されている。搬送基金については、資金の適用状況が住民に開示されており、住民への説明責任を果たしながら適切に管理されている。また、基金の一定額を有利子の商業融資に充てることで、基金原資が枯渇することなく持続的に運用できるよう工夫されている。利子収益は、本事業で配布した応急処置キットや准助産師キットの消耗品の補充購入費に充てられ、将来的に十分な収益が得られた場合には、学校や道路の補修といった村のさらなる発展のために活用することも決められている。

公的保健ボランティア（准助産師）が積極的に基礎保健サービス提供に参加し、住民と基礎保健スタッフ間の橋渡しの役割を果たせるようになったことで、あるべき基礎保健サービス提供の姿が実現しつつある。これにより、公的保健施設や基礎保健スタッフの有無に関わらず、どの村の住民もよりよい基礎ヘルスケアを継続的に受けられる体制が整いつつある。

公的保健医療施設へ供与した医療用家具は各施設に譲渡され、活用されていく。今後は、郡保健局監督の下、適切に維持管理されていく。

#### 生計向上に関する知識と技術の向上

農業・畜産に関する知識・技術（家畜への予防接種、土壤保全、安全な肥料や殺虫

剤使用など)が広く住民へ伝わり、実際にその技術を適用している例がすでに確認されている。住民の多くは農業・畜産を主な収入源としていることから、これらの知識や技術の向上が、今後の収入向上、生計改善、環境保全に繋がり、世代を超えて引き継がれていくと見込まれる。

#### 個別ニーズの具現化

特別コンセプトの活動内容は、VHDCメンバーがリーダーシップを発揮しながら、地域住民自身が村個別の課題・ニーズを検討して決定された。活動に必要な経費の30%以上は村人が負担し、高い自主性と当事者意識が醸成されている。活動の成果物(学校などの建造物など)の維持管理体制についても、VHDCや教育局などの関係機関と住民の間で決められ、事業終了後も適切に管理される見込みである。